

平成27年度

病害虫発生予察情報

第 11 号

7 月月報

北海道病害虫防除所 平成 27 年 8 月 17 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshoh/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区気象台発表 北海道地方気象速報

－『高温・並雨・多照』上旬の低温一転、中旬に気温上昇－

この期間の天気は、上旬と中旬は概ね数日の周期で変化したが、太平洋側を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多かった。下旬は前線や気圧の谷、暖かく湿った気流の影響で雨の降った日が多く、大雨となった所もあった。気温は上旬は平年より低かったが、中旬はかなり高く、下旬も高く、月平均気温は平年より高かった。降水量は下旬は平年より多く、月降水量は平年並だった。日照時間は上旬は平年より多く、中旬もかなり多かったが、下旬は少なく、月間日照時間は多かった。また、中旬のオホーツク海側と太平洋側の日照時間は 1961 年の統計開始以降、最も多かった。

上旬：1日は気圧の谷の影響で広い範囲で雨が降った。2日は低気圧の影響で広い範囲で雨が降ったが、太平洋側東部では日中に晴れた。日降水量は苫小牧で 43.5mm など。3日は低気圧の影響で雨の降った所があったが、太平洋側を中心に晴れた所も多かった。4日は気圧の谷の影響でオホーツク海側南部を中心に雨が降ったが、日本海側南部と太平洋側西部では晴れた。5日は高気圧に覆われて晴れた所が多かったが、気圧の谷の影響で雨の降った所があった。6日は高気圧に覆われて広い範囲で晴れたが、日本海側北部では気圧の谷の影響で雨の降った所があった。7日は低気圧の影響で広い範囲で雨が降ったが、太平洋側東部を中心に晴れた所もあった。8～10日は高気圧に覆われて晴れた。

中旬：11～12日は高気圧の張り出しの中で晴れた。13日は前線や暖かく湿った気流の影響で広い範囲で雨が降った。日降水量は猿払村浜鬼志別で 139.5mm など。14日は低気圧や寒冷前線の影響で雨が降ったが、晴れた所も多かった。15日は気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、太平洋側を中心に晴れた所も多かった。16～17日は高気圧に覆われて晴れた。18日は台風第 11 号から変わった熱帯低気圧と前線の影響で、日本海側と太平洋側を中心に雨が降った。19日は前線の影響で雨の降った所が多かったが、次第に高気圧に覆われて広い範囲で晴れた。20日は前線の影響ではじめ雨の降った所があったが、高気圧に覆われて晴れた。

下旬：21日は前線の影響で雨の降った所が多かったが、日本海側北部とオホーツク海側では晴れた。22日は前線や暖かく湿った気流の影響で全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は幌加内町朱鞠内で 113.0mm など。23～24日は気圧の谷の影響で大雨となった所があったが、24日は晴れた所も多かった。日降水量は 23 日に上士幌町三股で 73.0mm など。25日は低気圧や前線の影響で雨の降った所が多かった。日降水量は乙部町潮見で 69.0mm など。26日は前線の影響で全道的に雨が降った。27日はオホーツク海側や内陸を中心に晴れたが、朝晩は気圧の谷の影響で雨の降った所が多かった。28日は暖かく湿った気流の影響で渡島半島や内陸で大雨となった所があったが、晴れた所も多かった。日降水量は木古内で 95.0mm など。29～31日は暖かく湿った気流の影響で雨の降った所があり、大雨となった所もあった。日降水量は 29 日に美瑛町白金で 43.5mm、31日に上川町栄町で 82.5mm など。

気象表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道 22 地点平均	+1.1	高	105	並	119	多
日本海側 10 地点平均	+0.4	並	145	多	99	並
オホーツク海側 4 地点平均	+1.5	高	111	並	116	多
太平洋側 8 地点平均	+1.8	か高	52	少	147	か多

(注)階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の 3 段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010 の 30 年間)における各階級の出現率が 1:1:1 となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位 10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

II. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生期 並 発生量 やや多

予察田の「きらら397」における葉いもちの本田初発期は、岩見沢市および北斗市では平年並、比布町では平年よりやや早かった。発生量は岩見沢市と北斗市では平年に比べ多く、比布町では平年に比べやや少なかった。

巡回調査によると、7月6半旬現在いずれの地点においても発生は認められていない。

予察田におけるいもち病の発生状況

地点	品種名	取り置き苗初発期		本田初発期		平年数
		本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	6月22日	7月1日	7月21日	7月23日	4
	ななつぼし	6月22日	7月2日	7月20日	7月19日	4
比布町	きらら397	6月18日	6月18日	7月11日	7月14日	10
	ほしのゆめ	6月18日	6月18日	7月11日	7月11日	10
北斗市	きらら397	6月22日	6月25日	7月13日	7月15日	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

予察田における葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0	0.3	0	4.9	21	8.8	4
	ななつぼし	0	1.0	0	14.0	25	25.3	4
比布町	きらら397	0	2.8	0	16.9	25	30.2	10
	ほしのゆめ	0	3.7	0	18.7	25	37.7	10
北斗市	きらら397	0	0.2	2	3.1	25	9.0	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

一般田におけるいもち病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)		普及センター	地点数	発病株率(%)		
		7月3半旬	7月6半旬			7月3半旬	7月6半旬	
空知	本所	5	0	渡島	本所	3	0	
	南東部	2	0		檜山	本所	2	0
	南西部	4	0		北部	2	0	
	中空知	4	0	上川	本所	8	0	
	北空知	8	0		富良野	2	0	
石狩	本所	6	0	大雪	4	0		
	北部	4	0	士別	2	0		
後志	本所	4	0	名寄	3	0		
胆振	東胆振	4	0	留萌	本所	3	0	
日高	西部	3	0		南留萌	3	0	

2. ニカメイガ 発生期 やや早 発生量 やや多

予察田のフェロモントラップにおける成虫の初発期は、長沼町で平年よりやや早く、北斗市では平年より早かった。誘殺頭数は長沼町で平年より多く、北斗市では平年より少なかった。

予察田におけるフェロモントラップによるニカメイガの誘殺頭数

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	2	4.3	0	1.7
2半旬	5	5.6	0	1.7
3半旬	53	5.9	0	1.7
4半旬	48	2.2	1	4.9
5半旬	3	2.0	3	1.9
6半旬	63	0.0	1	3.6
初発期	6月26日	6月30日	6月28日	7月11日
平年数	3		10	

3. ウンカ類 発生期 ヒメトビウンカ(第2回)：並、セジロウンカ：並 発生量 並

予察田におけるヒメトビウンカ第2回成虫の初発期は、北斗市で平年より早く、長沼町で平年並、比布町では平年よりやや遅かった。予察田による成虫誘殺数は、長沼町および北斗市で平年より多く、比布町では平年並であった。水田すくい取りによる成虫捕獲数は、長沼町と北斗市で平年より多く、比布町で平年よりやや少なかった。

予察田におけるセジロウンカの初発期は、北斗市で平年より早く、長沼町では平年より遅かった。予察田による成虫誘殺数は、長沼町で平年よりやや多く、北斗市では平年より少なかった。比布町では誘殺が認められなかった。水田すくい取りによる成虫捕獲数は、長沼町で平年よりやや多く、北斗市では平年並であった。比布町では捕獲が認められなかった。

巡回調査によると、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取り捕獲数は、全76調査地点中最大でも16頭であり、吸汁害が発生する密度(成虫：1,800頭、または幼虫：900頭)に達した地点は認められなかった。

ヒメトビウンカ成虫の予察田誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察田誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.2	0	0.7	0	0.0	0	0.8	0	0.9	0	0.3
2半旬	0	2.7	0	3.6	0	0.0	0	0.4	0	0.8	0	0.0
3半旬	28	10.0	0	9.6	2	0.1	2.5	0.8	0	5.1	3	0.0
4半旬	16	79.1	101	48.0	10	0.0	0	1.7	15.0	30.7	5	1.0
5半旬	162	86.6	563	231.9	9	0.3	57.5	4.6	5.0	79.4	7.5	1.3
6半旬	631	189.6	761	2069.1	4	0.8	63.8	3.1	140.0	193.8	7.5	1.5
初発期	7月12日	7月14日	7月18日	7月13日	7月15日	7月28日						
平年数	10		10		10		3		10		10	

※初発期は第2回成虫

セジロウンカ成虫の予察田誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察田誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	0.0
3半旬	0	0.0	0	0.1	0	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4半旬	0	0.8	0	0.3	2	4.8	0	0.0	0	0.0	3	0.5
5半旬	0	0.3	0	0.5	3	2.0	1.3	0.0	0	0.0	0	0.3
6半旬	12	2.2	0	13.9	12	160.6	0	0.0	0	0.3	5	9.8
初発期	7月27日	7月12日	-	7月24日	7月17日	7月30日						
平年数	10		10		10		3		10		10	

巡回調査によるヒメトビウカ成幼虫の水田 20 回振りすくい取り頭数

普及センター	地点数	7月6半旬		普及センター	地点数	7月6半旬			
		本年	昨年			本年	昨年		
空知	本所	5	0	0	渡島	本所	3	1.7	0.7
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	2.0
	南西部	4	1.5	2.3	北部		2	0	0
	中空知	4	0	1.3	上川	本所	8	2.5	0.4
	北空知	8	2.8	3.6		富良野	2	0	0
石狩	本所	6	1.5	1.3		大雪	4	1.5	1.5
	江別	4	0	0	士別	2	0.5	0.8	
後志	本所	4	1	0	名寄	3	0	0	
胆振	東胆振	4	0	0	留萌	本所	3	3.0	2.7
日高	西部	3	0	0		南留萌	3	0	2.0

4. イネドロオウムシ 発生量 少

予察田における幼虫数は長沼町および比布町で平年より少なく、北斗市では平年よりやや少なかった。被害葉率はいずれの地点も平年より低かった。

7月6半旬の巡回調査によると、被害葉率は空知地方の1地点で15%と被害がやや目立ったものの、ほとんどの地点では5%以下にとどまった。

予察田におけるイネドロオウムシの発生状況

月・半旬	水田見取り調査による幼虫数(25株あたり)						被害葉率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1.5	66.3	7	154.9	28.5	-	3.0	27.9	0.6	28.4	9.7	-
2半旬	11.5	94.0	8	85.5	27.5	96.6	5.2	37.1	0.8	30.8	10.3	37.0
3半旬	20.0	95.7	17	30.1	12.0	-	8.9	38.1	1.1	29.1	9.6	-
4半旬	32.5	70.7	14	9.5	11.5	11.1	8.4	37.0	2.2	30.2	9.4	33.1
5半旬	27.0	29.8	4	5.9	12.0	-	9.5	32.0	2.0	28.1	10.9	-
6半旬	2.5	1.0	1	2.8	0	4.8	7.3	25.7	1.8	27.2	5.8	27.2
平年数	3		10		10		3		10		10	

巡回調査によるイネドロオウムシの幼虫数および被害葉率

普及センター	地点数	幼虫数		被害葉率		普及センター	地点数	幼虫数		被害葉率			
		7月3半旬		7月6半旬				7月3半旬		7月6半旬			
		本年	昨年	本年	昨年			本年	昨年	本年	昨年		
空知	本所	5	3.4	0	0.7%	0.1%	渡島	本所	3	0	0	0%	0%
	南東部	2	0.5	1.0	0%	0%		檜山	本所	2	0	0	0%
	南西部	4	2.8	7.5	6.3%	0.5%	北部		2	0	0.5	0%	0.6%
	中空知	4	1.3	1.3	1.0%	1.0%	上川	本所	8	1.3	0	0%	0%
	北空知	8	0.4	4.5	1.9%	2.8%		富良野	2	0.5	1.0	0%	0%
石狩	本所	6	3.0	0	2.7%	0%		大雪	4	1.6	2.8	0.6%	0.2%
	北部	4	0.8	0	0.6%	0.3%	士別	2	0.5	0	0.2%	0.4%	
後志	本所	4	0	0	0%	0%	名寄	3	0	0	0%	0%	
胆振	東胆振	4	5.3	1.3	0.3%	0.03%	留萌	本所	3	2.7	1.0	3.3%	0.7%
日高	西部	3	0	28.5	0%	2.1%		南留萌	3	0	0.7	0%	0%

幼虫数は25株あたり

5. アカヒゲホソミドリカスミカメ(第2回)

発生期 やや早 発生量 やや多

<8月5日付け注意報第2号発表>

予察灯による第2回成虫の初発期は、長沼町および北斗市で平年よりやや早く、比布町では平年よりやや遅かった。予察灯による成虫誘殺数は、長沼町および北斗市で平年より多く、比布町では平年より少なかった。予察田における水田すくい取り成虫数は、長沼町および北斗市で平年よりやや多かった。比布町では捕獲されなかった。

7月6半旬の巡回調査によると、水田すくい取りにおいて発生モニタリングによる追加散布の基準である捕獲数2頭以上(きらら397)となる水田が、全76調査地点のうち、空知、石狩、上川の計7地点で認められた。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	11.4	0	3.0	0	3.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2半旬	4	34.1	0	2.8	0	4.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3半旬	140	116.1	0	3.4	84	8.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4半旬	208	209.1	9	4.7	61	28.0	0	1.7	0	0.5	0	0.3
5半旬	796	387.1	2	20.4	117	35.8	0	1.3	0	1.3	2.5	1.0
6半旬	1209	695.9	15	56.8	141	54.9	18.8	2.5	0	1.0	5.0	2.3
初発期	7月5日	7月8日	7月17日	7月13日	7月11日	7月15日						
平年数	10		10		10		3		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の20回振りすくい取り頭数

普及センター	地点数	畦畔				水田	
		7月3半旬		7月6半旬		7月6半旬	
		本年	昨年	本年	昨年	本年	昨年
空知 本所	5	0	0.4	0.4	0.6	0	1.5
	南東部	2	0	0	0	3.5	0
	南西部	4	0	10.8	7.0	0.8	1.5
	中空知	4	0.8	0.5	1.8	0.3	0.3
	北空知	8	0.9	2.8	0.6	0.6	0.1
石狩 本所	6	1.3	4.3	4.5	3.0	0.7	0.3
	江別	4	0.5	0.9	0.8	0.8	0
後志 本所	4	0	0	0	0.7	0	0
胆振 東胆振	4	0.5	1.8	1.8	0	0	0
日高 西部	3	0	0.7	1.0	0.3	0	0.3
渡島 本所	3	1.0	0	2.7	0.7	0.3	0.3
檜山 本所	2	0	5.0	1.5	0	0	0
	北部	2	0	0	0	0.5	0.5
上川 本所	8	0.8	2.1	1.4	0	0.5	0.1
	富良野	2	0	5.5	0	0	1.0
	大雪	4	0	3.8	0.5	0	0.3
	士別	2	0	4.0	1.0	0.5	0.5
	名寄	3	0	0	2.3	1.3	0.2
留萌 本所	3	1.3	6.7	0	4.0	0.3	0.7
	南留萌	3	1.0	1.3	0	0	0

6. フタオビコヤガ 発生量 少

予察灯による成虫誘殺数は、いずれの地点も平年より少なかった。第2回幼虫による予察田の被害率は、長沼町および比布町で平年より低く、北斗市で平年並であった。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	7.0	7	78.8	1	11.0	0.2	0.7	0.0	1.2	0.1	-
2半旬	0	16.8	11	70.2	1	16.5	0.1	1.5	0.0	1.2	0.1	0.0
3半旬	0	75.4	12	24.9	9	9.0	1.1	1.5	0.0	2.5	0	-
4半旬	0	12.3	3	5.8	0	1.2	1.5	3.5	0.1	4.4	0.1	0.0
5半旬	0	6.7	1	20.8	4	3.6	1.2	3.8	0.2	6.1	0	-
6半旬	0	20.3	16	236.7	1	18.4	3.1	6.6	1.1	7.0	0	0.1
平年数	10		10		10		3		10		10	

B. 秋まき小麦

1. 赤かび病 発生量 やや多

予察ほにおける主力品種「きたほなみ」での発生量は、長沼町では平年に比べ多く、訓子府町では平年並、芽室町では平年に比べ少なかった。発生菌種は、長沼町では *Fusarium graminearum* の割合が高く、芽室町および訓子府町では *Microdochium nivale* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	きたほなみ	8.0	1.8	5	19.4	5.6	75.0	0
	チホクコムギ	9.3	5.0	10	78.6	0	21.4	0
	ホクシン	6.7	2.5	10	44.2	2.3	51.2	0
芽室町	きたほなみ	1.6	20.7	6	85.7	0	14.3	0
	チホクコムギ	4.2	36.4	10	9.7	6.5	80.6	3.2
	ホクシン	3.0	29.5	10	44.1	2.9	47.1	5.9
訓子府町	きたほなみ	11.7	9.3	6	96.0	0	4.0	0
	チホクコムギ	21.7	10.9	10	94.0	0	6.0	0
	きたもえ	16.3	9.0	6	92.0	0	8.0	0

注) M.niv: *Microdochium nivale*、F.ave: *Fusarium avenaceum*、F.gra: *F.graminearum*、F.cul: *F.culmorum*

2. アブラムシ類 発生量 やや少

予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの発生量は、長沼町で平年よりやや多く、訓子府町では平年並であった。ムギクビリアブラムシの発生量は、長沼町で平年よりやや少なく、訓子府町では平年より少なかった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の寄生虫数(25穂)

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビリアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	7	2.6	20	33.1	7	3.4	1	11.6
2半旬	-	0.7	4	11.9	-	4.4	0	5.8
3半旬	0	0.8	7	3.2	0	4.9	0	2.2
4半旬	0	0.0	2	3.7	0	0.5	9	12.8
平年数	10		10		10		10	

注) -: 欠測

C. 春まき小麦

1. 赤かび病 発生量 並

予察ほの「春よ恋」における発生量は、長沼町では平年に比べやや多く、比布町では平年に比べ少なかった。発生菌種は、長沼町、比布町ともに *Fusarium graminearum* が主体であった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	春よ恋	17.0	14.3	10	12.9	6.5	80.6	0
比布町	春よ恋	1.0	5.3	5	0	6.9	93.1	0

注1)比布町の平年値は、2010～2014年の「ハルユタカ」の数値

注2)M.niv: *Microdochium nivale*、F.ave: *Fusarium avenaceum*、F.gra: *F.graminearum*、F.cul: *F.culmorum*

D. 豆類

1. べと病(大豆) 発定期 並 発生量 並

長沼町の予察ほにおける初発期、発生量ともに平年並であった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	7月8日	7月9日	1.0	5.8	3.5	13.7	25.0	22.3	10

2. 菌核病(菜豆) 発定期 並 発生量 やや少

芽室町の予察ほにおける初発期は平年並であった。発生量は平年に比べやや少なかった。7月6半旬の巡回調査によると、一般ほでの発生は十勝地方の一部で認められた。

予察ほにおける菌核病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月27日	7月26日	0	0.1	1.5	5.3	10

一般ほにおける菌核病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)		普及センター	地点数	発病株率(%)	
		7月6半旬				7月6半旬	
胆振 本所	1	0		十勝 東北部	2	1.7	
上川 士別	1	0			3	0	
網走 美幌	2	0			3	0	
十勝 本所	2	0			南部	2	0
	3	0					

3. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生期 並 発生量 並

長沼町の予察ほ（小豆）における初発期は平年よりやや早く、発生量は平年並であった。芽室町の予察ほ（菜豆）における初発期は平年より遅く、発生量は平年に比べ少なかった。7月6半旬の巡回調査によると、石狩および十勝地方の一部で小豆の灰色かび病、十勝地方で菜豆の灰色かび病の発生が認められた。

予察ほにおける灰色かび病発生状況（小豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	7月30日	8月4日	0	0	0.5	0.2	10

予察ほにおける灰色かび病発生状況（菜豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月27日	7月21日	0	0.1	1.0	12.3	10

小豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)		普及センター	地点数	発病株率(%)	
		7月6半旬				7月6半旬	
空知 本所	1	0		上川 富良野	1	0	
石狩 本所	4	1.3		大雪	3	0	
	1	10.0		士別	1	0	
後志 本所	2	0		名寄	2	0	
胆振 本所	1	0		留萌 本所	1	0	
	3	0		網走 本所	2	0	
檜山 本所	1	0		網走	2	0	
	3	0		美幌	4	0	
		0		十勝 本所	3	1.3	
				東部	6	0	
				東北部	4	0	
				北部	3	1.7	
				西部	3	0	

菜豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)		普及センター	地点数	発病株率(%)	
		7月6半旬				7月6半旬	
胆振 本所	1	0		十勝	東北部	2	12.5
上川 士別	1	0			北部	3	5.0
網走 美幌	2	0			西部	3	0
十勝 本所	2	2.0			南部	2	0
	6	0.2					

4. アズキノメイガ (小豆)

発生期 早

発生量 並

予察灯における初発期は、長沼町で平年より早かった。7月の誘殺数は、長沼町で5頭（平年：3.8頭）と平年並、訓子府町で2頭（平年：0.3頭）と平年よりやや多かった。芽室町では誘殺が認められなかった。

予察灯におけるアズキノメイガ初発期

長沼町		芽室町		訓子府町	
本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月26日	7月13日	-	7月15日	6月30日	-

5. 食葉性鱗翅目幼虫 (大豆・小豆)

発生量 並

予察ほにおける大豆および小豆の被害程度は長沼町、訓子府町ともに平年並であった。

予察ほの大豆および小豆における食葉性鱗翅目幼虫の被害程度(25株)

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	14	15.4	2	8.6	7	13.5	1	4.0
2半旬	20	19.4	4	11.9	18	16.2	1	5.2
3半旬	37	28.0	8	15.8	18	20.7	4	8.1
4半旬	35	31.6	12	22.7	27	19.6	7	11.4
5半旬	43	36.6	20	26.9	25	19.0	9	13.6
6半旬	43	41.4	25	28.4	25	20.0	13	15.4
平年数	10		9		10		9	

6. ジャガイモヒゲナガアブラムシ(大豆)

発生量 並

予察ほの大豆における寄生虫数は、長沼町で平年よりやや多く、芽室町で平年並、訓子府町では平年より少なかった。

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生虫数

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	8	2.3	1	2.2	0	4.2
2半旬	4	1.7	4	3.8	1	2.8
3半旬	0	1.1	3	5.7	1	2.9
4半旬	0	0.2	4	5.0	0	1.9
5半旬	0	0.7	5	4.0	0	1.6
6半旬	0	0.0	3	3.7	0	1.5
平年数	10		10		10	

注) 25株の株あたり1茎について、上・中位の各先端1小葉、合計50小葉を調査

7. マメアブラムシ(小豆)

発生量 並

予察ほの小豆における寄生株率は、芽室町でやや高く、訓子府町では平年並であった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシ寄生株率(%)

月・半旬	芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	44	16.1	16	8.6
2半旬	56	20.0	0	10.0
3半旬	24	23.0	4	8.6
4半旬	12	22.0	8	10.9
5半旬	4	22.5	24	13.1
6半旬	0	6.0	12	5.7
平年数	7		6	

注)25株調査

E. ばれいしょ

1. 疫病 発生期 早 発生量 やや多 <7月13日付け注意報第1号発表>

予察ほの「とうや」における初発期は、長沼町および訓子府町では平年より早く、北斗市ではやや早かった。芽室町では未発生である。発生量は長沼町では平年に比べ多く、訓子府町ではやや少なく推移した。

巡回調査の報告によると、一般ほにおいては、空知、渡島、オホーツク、十勝地方で7月3半旬から発生が認められ、7月6半旬には檜山、上川、根室地方でも発生が認められた。

FLABSによる初発期の予測は、すべての地点で適合しなかった。

予察ほにおけるばれいしょの疫病初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	とうや	7月9日	7月18日	7
	スノーマーチ	7月9日	7月26日	6
北斗市	とうや	7月5日	7月9日	7
芽室町	とうや	未発生	7月9日	7
	男爵薯	未発生	7月9日	10
	スノーマーチ	未発生	7月11日	6
	紅丸	未発生	7月8日	10
訓子府町	とうや	7月8日	7月14日	7
	スノーマーチ	7月4日	7月14日	6

予察ほにおけるばれいしょの疫病発生状況

地点	品種名	発病度											
		7月1半旬		7月2半旬		7月3半旬		7月4半旬		7月5半旬		7月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	とうや	0	0.1	1.5	0.1	1.5	0.1	24.0	0.6	93.5	7.9	100	30.9
	スノーマーチ	0	0	0.5	0	1.5	0	21.0	0.1	62	2.2	100	18.9
北斗市	とうや	0	8.0	1.5	12.1	6.0	29.1	—	47.6	—	64.1	—	82.5
芽室町	とうや	6	1.0	0	5.2	0	21.2	0	48.0	0	70.1	0	98.5
	男爵薯	0	1.6	0	8.0	0	23.6	0	43.4	0	76.8	0	97.3
	スノーマーチ	0	3.4	0	6.8	0	22.1	0	37.5	0	62.3	0	90.3
	紅丸	0	2.0	0	6.9	0	19.8	0	43.2	0	68.9	0	89.9
訓子府町	とうや	0	0.1	3.0	3.3	8.0	7.4	9.5	17.6	17.5	34.3	44.0	55.3
	スノーマーチ	0.5	0.1	5.5	2.8	10.5	5.3	14.5	14.9	18.0	26.3	37.5	44.5

注1) - : 自然枯凋により調査終了

一般ほにおけるばれいしょの疫病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)		普及センター	地点数	発病株率(%)			
		7月3半旬	7月6半旬			7月3半旬	7月6半旬		
空知 南東部	1	1.0	1.0	網走 本所	6	0	1.7		
後志 本所	5	0	2.0	清里	3	0	0.7		
胆振 本所	2	0	0	網走	2	0	0		
渡島 本所	1	1.0	1.0	美幌	2	4.5	0		
檜山 本所	2	0	16.0	十勝 本所	4	0.3	42.5		
	北部	4	0		2.5	東部	6	0	1.0
上川 富良野	3	0	12.0		東北部	1	0	0	
	大雪	3	0		2.7	北部	3	0	0.3
	士別	1	0		0	西部	3	0	0
	名寄	1	0		5.0	南部	3	0	6.3
釧路 本所	3	0	0	根室 本所	3	0	0		
根室 北根室	3	0	5.0						

予察ほにおけるFLABSの予測結果の適合性

地点	品種名	萌芽日	基準月日	予測日 初発日	70%信頼区間	初発日	判定
長沼町	とうや	5月21日	6月10日	6月29日	-	7月9日	-
	スノーマーチ	5月27日	6月10日	6月29日	-	7月9日	-
北斗市	とうや	5月12日	6月12日	7月1日	-	7月5日	-
芽室町	とうや	5月28日	6月28日	7月13日	7/7 ~ 7/18	未発生	×
	スノーマーチ	5月29日	6月28日	7月13日	7/7 ~ 7/18	未発生	×
訓子府町	とうや	5月30日	6月30日	7月14日	7/9 ~ 7/19	7月8日	×
	スノーマーチ	5月31日	6月30日	7月14日	7/9 ~ 7/19	7月4日	×

注1) 基準日は萌芽日からの累積危険値が21に到達した日

注2) ○: 初発日が70%信頼区間内、×: 初発日が70%信頼区間外

注3) -: 初発予測日が7月3日より以前の場合、70%信頼区間の計算式がない

2. アブラムシ類 発生量 並

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、いずれの地点も平年より少なかった。ワタアブラムシの発生量は、長沼町および訓子府町で多かった。芽室町では発生が確認されなかった。モモアカアブラムシは、長沼町で認められたものの寄生虫数は少なかった。

巡回調査によると、20 複葉当たりの寄生虫数が 100 頭を超える地点がオホーツク地方に 2 地点認められたものの、ほとんどの地点では 20 頭以下と少なかった。

予察ほのばれいしょにおけるアブラムシ類の寄生虫数

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0.5	2.3	2.0	3.6	3.0	16.4	14.5	1.4	0	0.2	6.5	3.8
2半旬	0	1.4	5.0	5.6	3.0	14.8	29.5	0.6	0	0.0	1.5	6.1
3半旬	0.5	0.9	3.0	8.5	4.5	17.5	77.0	1.6	0	0.1	34.0	10.2
4半旬	0	0.9	6.5	13.0	0.5	9.8	23.5	1.0	0	0.4	27.0	7.0
5半旬	0	0.4	2.0	6.9	0	8.2	3.0	2.0	0	1.2	82.0	12.6
6半旬	0	0.5	2.0	2.1	0	8.7	7.5	2.7	0	0.9	63.5	29.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

注 1) 20 株各 2 複葉、合計 40 複葉を調査。虫数は 10 株 20 複葉あたり換算虫数

注 2) 品種は「スノーマーチ」

巡回調査によるばれいしょのアブラムシ類寄生虫数

普及センター	地点	地点数	7月3半旬		7月6半旬		本年優占種
			本年	昨年	本年	昨年	
空知	南東部	1	0	0	0	0	
後志	本所	5	0	0	1.2	9.6	ヒゲナガ、ワタ
胆振	本所	2	0.5	0	0	23.0	
渡島	本所	1	3.0	31.5	14.0	-	ヒゲナガ、ワタ
檜山	本所	2	0	0	-	7.5	ヒゲナガ
	北部	4	0	0	-	0	
上川	富良野	3	0	0	0	0	ヒゲナガ
	大雪	3	2.0	3.3	0	0	
	士別	1	0	0	9.0	0	
	名寄	1	0	0	0	0	
網走	本所	6	1.3	24.2	76.8	23.3	ヒゲナガ、ワタ
	清里	3	2.0	3.3	51.0	8.3	モモアカ、ワタ
	網走	2	4.5	7.5	10.5	10.0	ヒゲナガ、ワタ
	美幌	2	0	0	17.5	1.5	ワタ
十勝	本所	4	7.8	12.5	5.8	9.8	ヒゲナガ、モモアカ
	東部	6	0.3	0.2	3.0	2.5	ヒゲナガ、ワタ
	東北部	1	0	4.0	14.0	0	ワタ
	北部	3	0	0	0	3.3	
	西部	3	0	0	0.7	33.3	ヒゲナガ
	南部	3	0	0	0	0	ヒゲナガ
釧路	本所	3	0	11.7	0	0	ヒゲナガ
根室	北根室	3	0.3	0	0.3	0	ワタ

注 1) 10 株 20 複葉調査

注 2) ヒゲナガ: ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタ: ワタアブラムシ、モモアカ: モモアカアブラムシ

注 3) -: 枯凋期により調査不能

F. てんさい

1. 褐斑病 発生期 やや遅 発生量 やや少

予察ほにおける初発期は、訓子府町では平年より早く、長沼町および芽室町では平年より遅かった。発生量は、訓子府町では平年並、長沼町および芽室町では平年に比べ少なかった。

巡回調査の報告によると、一般ほにおいては、石狩、胆振、上川、オホーツク、十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	リッカ	7月18日	—	0	—	0.8	—	0.8	—	—
	あまいぶき	7月18日	7月9日	0	0.8	0.3	3.6	1.3	15.1	5
芽室町	リッカ	7月24日	—	0	—	0	—	3.2	—	—
	あまいぶき	7月23日	7月13日	0	0.5	0	2.4	8.4	12.5	5
	スタウト	7月23日	7月19日	0	0.1	0	1.3	5.6	5.5	10
訓子府町	リッカ	7月4日	7月11日	0.8	0.9	2.0	3.5	10.5	11.1	6

注)長沼町と芽室町の「リッカ」は平年値なし

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)		普及センター	地点数	発病株率(%)		
		7月3半旬	7月6半旬			7月3半旬	7月6半旬	
空知 南東部	1	0	0	網走	本所	10	0.3	1.2
石狩 本所	3	0	0.3		清里	3	0	0.7
後志 本所	3	0	0		網走	2	0	0
胆振 本所	4	0.3	1.0		美幌	6	0	0.7
	東胆振	3	0		0	遠軽	9	0
上川 富良野	3	0	0		十勝	本所	4	1.6
	大雪	3	2.7	0		0.3		
	士別	2	0	0		0		
	名寄	1	0	0		0		
				東部		6	0	0.3
				東北部		4	0	0
				北部		3	0	0
				西部	3	0	0.3	
				南部	3	0	0	

てんさいの褐斑病の多発に注意しましょう

本病は、高温多湿条件で発病が進展しやすい病害です。8月13日付け札幌管区気象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予報されています。このため、発病が進展しやすい状況が続くと考えられます。

今後、各作物の収穫および秋まき小麦のは種などで作業が混み合う時期となりますが、適切な防除を実施して、本病の発生を抑えましょう。薬剤の選択にあたっては、耐性菌や感受性低下菌の出現を抑えるため、他病害の防除も含め、同一系統の薬剤の連用は避けましょう。

2. ヨトウガ(第1回) 発生量 やや少

予察ほにおける食害程度は長沼町および芽室町で平年並、訓子府町では平年よりやや低かった。卵塊はいずれの地点も確認されなかった。

7月3半旬の巡回調査では、被害株率が50%以上となったほ場は認められなかった。

予察ほにおけるヨトウガの産卵塊数および食害程度(50株)

月・半旬	卵塊数(50株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	3.0	0	0.0	0	0.2	16.0	26.2	6	15.2	1	3.0
2半旬	0	1.4	0	0.0	0	0.1	26.0	41.1	11	20.8	4	5.9
3半旬	0	0.8	0	0.0	0	0.0	29.5	54.2	17	28.4	9	12.3
4半旬	0	0.7	0	0.0	0	0.0	48.5	61.6	24	35.9	12	20.5
5半旬	0	0.2	0	0.0	0	0.0	55.0	65.0	26	39.2	15	28.6
6半旬	0	0.3	0	0.0	0	0.0	43.0	66.0	30	42.7	17	36.0
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率および食害程度

普及センター	地点数	被害株率		食害程度		普及センター	地点数	被害株率		食害程度			
		7月3半旬		7月6半旬				7月3半旬		7月6半旬			
		本年	昨年	本年	昨年			本年	昨年	本年	昨年		
空知	南東部	1	2.0%	3.0%	2.0	2.0	網走	本所	10	6.0%	23.3%	1.9	14.7
石狩	本所	3	19.0%	5.7%	12.0	10.7		清里	3	5.3%	4.0%	3.5	4.7
後志	本所	3	0%	6.7%	0	6.7		網走	2	2.5%	9.5%	0	4.0
胆振	本所	4	11.8%	12.8%	6.1	2.8		美幌	6	2.0%	24.0%	4.0	11.2
	東胆振	3	6.0%	3.0%	0	0		遠軽	9	3.9%	62.0%	4.2	18.3
上川	富良野	3	10.7%	85.3%	0.7	32.7	十勝	本所	4	5.0%	25.1%	2.1	9.5
	大雪	3	0%	8.0%	1.0	1.7		東部	6	3.2%	9.3%	3.5	2.2
	士別	2	0.5%	0%	0	0		東北部	4	0.5%	26.0%	0	17.5
	名寄	1	1.0%	71.0%	2.0	10.5		北部	3	0%	7.0%	0	13.7
								西部	3	4.3%	20.0%	4.0	5.7
								南部	3	0.7%	11.3%	2.7	23.0

注1)被害株率:50株調査

注2)食害程度:25株調査

G. たまねぎ

1. 白斑葉枯病 発生量 やや少

予察ほにおける発生量は、長沼町では平年並、訓子府町では平年に比べ少なかった。
巡回調査の報告によると、一般ほにおいては空知、上川、オホーツク地方で発生が認められた。

予察ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	25.0	32.8	33.0	44.2	70.0	67.6	5
訓子府町	北もみじ2000	3.0	7.8	4.0	20.2	10.5	27.0	3

一般ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)		普及センター	地点数	発病株率(%)	
		7月3半旬	7月6半旬			7月3半旬	7月6半旬
空知	本所	4	0	上川 富良野	4	2.0	7.0
	南東部	3	1.1		士別	1	0
	南西部	2	0	網走 本所	8	0	3.3
	中空知	1	4.0		美幌	6	0
石狩	北部	2	0	遠軽	3	2.7	12.0
				十勝 東部	1	0	0

2. ネギアザミウマ 発生量 並

予察ほにおける寄生幼虫数は、長沼町では平年より少なく、訓子府町で平年並であった。被害程度は長沼町では平年よりやや低く、訓子府町で平年並であった。

巡回調査によると、7月6半旬の調査では寄生株率が50%以上となったほ場は、全35地点中、空知、石狩、上川およびオホーツク地方の7地点で認められた。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況(25株5ヵ所)

月・半旬	幼虫数				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	12	316	2349	1543	19	29.4	81	53.8
2半旬	38	174	2362	2138	37	38.4	89	67.3
3半旬	221	471	2935	2342	51	44.0	96	78.5
4半旬	141	599	2030	2440	56	52.7	100	87.4
5半旬	224	578	2145	2339	57	64.3	100	91.1
6半旬	163	437	1779	2422	56	74.4	100	91.3
平年数	10		10		10		10	

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率

普及センター	地点数	7月3半旬		7月6半旬		普及センター	地点数	7月3半旬		7月6半旬		
		本年	昨年	本年	昨年			本年	昨年	本年	昨年	
空知	本所	4	0%	21.5%	45.5%	上川 富良野	4	2.0%	30.0%	7.0%	30.0%	
	南東部	3	3.9%	11.6%	9.4%		0%	士別	1	0%	0%	60.0%
	南西部	2	0%	29.3%	0%	網走 本所	8	6.0%	2.8%	13.6%	13.5%	
	中空知	1	8.0%	12.0%	12.0%		16.0%	美幌	6	9.3%	15.3%	4.7%
石狩	江別	2	45.0%	1.0%	90.0%	70.0%	湧別	3	10.7%	10.7%	53.3%	26.7%
							十勝 東部	1	10.0%	0%	16.0%	12.0%

注)25株調査

H. あぶらな科野菜

1. 軟腐病 発生量 やや多

長沼町の予察ほ（だいこん）における発生量は、春まき作型では平年に比べ多く、初夏まき作型では平年並であった。

予察ほにおける軟腐病発生状況（だいこん）

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	おしん 耐病総太り	春まき	0	0.2	0.1	0.9	5.5	2.1	10
			初夏まき	-	-	0	0	0	0.5	10

注) - : 調査時期外

2. モンシロチョウ 発生量 やや多

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より多く、北斗市では平年並であった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	0.0	10	-
2半旬	3	9.8	7	19.9
3半旬	25	22.7	20	-
4半旬	78	42.4	23	24.7
5半旬	97	33.1	26	-
6半旬	40	28.9	5	9.5
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生幼虫数

3. コナガ 発生量 並

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、全ての調査地点において平年並であった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町、北斗市ともに平年並だった。

フェロモントラップによるコナガ雄成虫の誘殺頭数

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	78	73.1	28	77.7	9	8.1	11	5.2
2半旬	67	88.1	40	39.5	6	7.5	5	6.7
3半旬	158	149.2	73	47.3	5	6.2	7	8.7
4半旬	104	168.7	190	55.3	12	5.6	10	7.2
5半旬	57	139.2	98	76.7	9	7.1	7	2.8
6半旬	134	118.0	101	77.5	3	5.0	9	2.6
平年数	10		10		10		10	

注) 設置場所はあぶらな科野菜ほ場近辺、芽室町はあぶらな科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	5.9	8	-
2半旬	0	21.8	17	69.0
3半旬	4	57.4	49	-
4半旬	142	74.8	48	81.6
5半旬	246	116.8	217	-
6半旬	34	139.3	100	46.8
平年数	10		10	

注)10株あたりの寄生虫数

1. りんご

1. 黒星病 発生量 並

長沼町の予察園（無防除）での発生量は「昂林」、「つがる」とも平年並であった。余市町の予察園（慣行防除あり）では未発生である。巡回調査の報告によると、一般園において7月3半旬現在、発生は認められていない。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	3.6	5.2	9.4	8.6	12.9	12.1	6
	つがる	3.3	5.8	11.1	8.2	11.8	9.5	6

2. 斑点落葉病 発生量 やや少

長沼町の予察園（無防除）における発生量は新梢、徒長枝ともに平年に比べ少なかった。余市町の予察園（慣行防除あり）では未発生である。巡回調査によると、7月3半旬現在渡島、留萌地方の感受性品種（デリシャス系）で発生が認められた。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	0	1.79	1.25	2.79	1.25	3.76	5
	王林(徒長枝)	0	1.99	0	2.32	0	3.57	5

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)
			7月3半旬
後志	北後志	4	0
胆振	本所	1	0
渡島	本所	1	6.7
留萌	南留萌	1	14.0

3. ハマキムシ類 発生量 少

予察園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、長沼町および余市町Bで平年より少なかった。余市町Aでは誘殺が認められなかった。リンゴモンハマキの誘殺数は、長沼町で平年よりやや少なく、余市町Aでは平年より少なかった。余市町Bでは誘殺が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、七飯町では平年よりやや少なく、その他の地点では平年より少なかった。リンゴモンハマキの誘殺数は、壮警町で平年より少なく、札幌市および伊達市で平年よりやや少なく、岩見沢市および七飯町では平年並であった。

予察園におけるフェロモントラップによるハマキムシ類の誘殺頭数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	30.5	0	5.3	0.6	1.6	18	108.9	0	2.2	0	1.7
2半旬	10	8.7	0	2.7	0.4	1.4	38	79.0	0	1.3	0	1.3
3半旬	1	4.0	0	1.3	0	1.8	46	32.9	0	0.8	0	0.6
4半旬	4	2.4	0	1.3	0	1.3	27	15.1	0.7	0.6	0	0.6
5半旬	0	0.6	0	0.7	0	2.2	5	10.5	0.3	0.4	0	0.7
6半旬	0	0.0	0	1.2	0	1.9	3	4.5	0	0.6	0	0.3
平年数	10		10		10		10		10		10	

注)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮警町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0.4	1.6	2.3	6.8	1.7	4.3	0	1.6	6.0	8.2
2半旬	0.1	1.1	1.1	3.3	2.6	2.6	0	0.7	2.5	5.6
3半旬	0.5	0.6	0.4	1.9	1.7	1.4	0	0.1	0.7	3.1
4半旬	0	0.1	0	1.1	0	2.0	0	0.1	0.3	1.7
5半旬	0.5	0.1	0	0.2	0	3.0	0	0.1	0.3	0.0
6半旬	0.0	0.2	0	0.2	0	1.8	0	0.0	0.7	0.0
平年数	10		10		10		10		6	

注)調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮警町・七飯町各1地点。

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮警町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	6.3	3.3	12.0	24.4	15.8	26.8	0.8	1.3	7.0	3.5
2半旬	1.3	2.9	10.4	26.7	20.9	36.6	0.2	1.5	7.0	5.4
3半旬	2.0	2.6	8.9	20.0	17.3	34.5	0	1.6	2.0	4.1
4半旬	3.8	2.0	9.7	19.2	10.0	28.3	0	1.3	1.6	2.0
5半旬	3.8	1.3	14.0	17.3	5.4	26.2	0	0.8	0.4	0.9
6半旬	0.4	1.1	12.0	8.2	5.6	9.9	0	0.1	0.0	0.4
平年数	10		9		10		10		6	

注)調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮警町・七飯町各1地点。

4. モモシクイガ 発生量 やや多

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町では平年並、余市町Aおよび余市町Bでは平年よりやや多かった。いずれの地点も7月6半旬の誘殺数が平年より多くなった。長沼町の予察園における産卵数は平年よりやや多く、被害果率は7月6半旬に95%に達し、平年より高かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、岩見沢市で平年よりやや少なく、札幌市、七飯町では平年より多かった。その他の地点では平年並であった。

巡回調査では、いずれの園地においても産卵は確認されなかった。

予察園におけるフェロモントラップによるモモシクイガの誘殺頭数

月・半旬	フェロモントラップ誘殺頭数						産卵数		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	10	26.2	7	14.0	8	14.8	93	12.1	0	0.1
2半旬	13	57.2	13	17.7	3	18.6	92	70.9	0	2.7
3半旬	24	39.3	21	23.3	0	24.6	225	116.3	0	9.5
4半旬	12	65.7	26	25.4	54	26.4	224	177.1	48.0	30.6
5半旬	3	47.3	59	31.8	72	40.4	281	166.9	64.0	46.7
6半旬	335	67.0	101	50.0	112	44.9	78	165.7	95.0	62.2
平年数	10		10		10		10		10	

注1) 余市町A、Bの予察園は慣行防除あり。

注2) 産卵数は100果あたりの卵数。

一般園におけるフェロモントラップによるモモシクイガの誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		深川市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0.4	2.3	5.0	22.9	25.6	5.2	3.3	12.3	4.2	5.9	1.5	1.0	12.0	19.5
2半旬	0.6	5.8	5.0	26.3	20.1	9.0	24.7	17.6	10.0	6.8	1.0	2.6	2.0	29.1
3半旬	3.5	7.6	43.7	37.0	26.5	11.4	22.5	28.5	10.4	7.7	2.0	6.4	59.0	28.6
4半旬	6.3	7.0	38.6	43.4	21.1	10.9	11.3	29.8	8.8	5.1	21.0	11.2	50.0	41.3
5半旬	5.8	6.9	63.7	60.0	24.2	10.4	4.5	28.6	3.5	3.1	46.3	24.6	72.0	40.8
6半旬	6.4	9.5	89.0	71.0	21.0	11.8	39.9	24.2	3.9	3.2	89.1	57.9	47.0	51.4
平年数	10		8		10		10		10		6		9	

注) 調査地点数は、岩見沢市2地点、深川市・札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町・旭川市各1地点。

5. ハダニ類 発生量 少

予察園において、リンゴハダニはいずれの地点も発生が認められなかった。

ナミハダニの発生量は、余市町Aでは平年よりやや少なく、余市町Bでは平年より少なかった。長沼町では発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	3.3	0	0.8	0	0.8	0	0.1	6	1.5	3	5.3
2半旬	0	7.3	0	2.4	0	0.4	0	1.3	0	3.0	0	4.4
3半旬	0	2.7	0	5.0	0	0.0	0	0.1	0	1.7	0	0.0
4半旬	0	6.1	-	0.5	-	1.5	0	1.4	-	6.9	-	6.8
5半旬	0	12.9	0	-	0	-	0	6.9	1	-	0	-
6半旬	0	13.4	0	1.3	0	2.6	0	4.2	2	3.0	0	6.8
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1)30葉あたりの寄生数。

注2)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり。

6. キンモンホソガ 発生量 やや少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、いずれの地点も平年より少なかった。被害葉率は長沼町で平年より低く、余市町Aおよび余市町Bでは平年より高かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、伊達市で平年並であった。その他の地点では平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺頭数および被害葉率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺頭数						被害葉率(%)					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	27	15.7	17.6	101.5	4.7	58.8	0	0.7	0.1	0.0	0.04	0.1
2半旬	11	19.4	14.0	117.3	3.9	83.6	0	0.8	-	0.0	-	0.0
3半旬	14	17.5	13.6	81.4	2.1	70.0	0	0.3	-	0.2	-	0.0
4半旬	15	26.5	24.3	178.9	8.6	37.6	0	0.5	-	0.2	-	0.3
5半旬	9	39.9	60.3	125.3	9.4	60.3	1	3.2	8.0	0.0	4.0	1.0
6半旬	2	27.9	130.6	215.6	28.3	122.3	3	5.3	9.0	0.6	3.0	0.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

注)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺頭数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	9.6	151.9	0.4	1.5	0.0	5.2	15.0	167.9	137.8	161.8	28.5	142.0
2半旬	3.9	152.9	0	1.0	1.7	6.2	19.6	219.3	66.0	255.1	36.4	200.2
3半旬	8.0	123.8	0	2.8	1.8	6.6	25.9	259.5	3.7	228.1	33.2	151.8
4半旬	3.3	75.2	0	2.2	1.3	6.5	33.8	240.9	14.5	170.2	16.3	152.3
5半旬	8.5	45.6	0	1.8	0.3	11.0	19.9	179.4	12.9	92.1	4.1	91.2
6半旬	2.1	31.6	0	1.8	32.1	15.5	22.7	162.2	16.4	147.4	0.9	57.2
平年数	10		10		10		10		7		10	

注)調査地点数は、岩見沢市・増毛町2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町各1地点。

農薬による蜜蜂への被害に注意しましょう！

- 水稲の開花期である7～9月は、多くの養蜂家が道内各地に移動してきており、その中で水田の周辺に蜂場を設置して養蜂が行われている場合があります。

国の調査結果では、蜜蜂被害は水稲の開花期に多く、カメムシ防除に使用する殺虫剤を直接浴びたことが、原因の可能性があると考えられています。

このため、これから水稲のカメムシ防除の時期となってきますので、次の点に留意して適切な防除対策を進めてください。

- ① 蜜蜂は水稲開花期に周辺の水田に飛来しており、その際、カメムシ防除のための殺虫剤の暴露により被害が生じる可能性があります。
- ② 関係機関や農業団体等は、蜂場の設置場所及びその周辺の水田の農業散布計画等の情報を相互に共有し、得た情報を養蜂家、周辺の水稲農家に伝え、注意喚起しましょう。
- ③ 養蜂家は、蜜蜂がカメムシ防除の殺虫剤に暴露する確率が高い場所には、できるだけ巣箱の設置を避けるか、水稲の開花期に巣箱を退避させましょう。
- ④ 水稲農家においても、養蜂家と協力して、蜜蜂の活動が盛んな時間帯の農業散布を避けたり、蜜蜂が暴露しにくい形態の農薬(粒剤等)を使用するなど、地域の実態に合わせて取り組んでください。

6月15日～8月31日は**農薬危害防止運動**実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理、環境への影響に配慮した農薬の使用等を推進するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、**「農薬危害防止運動」**を実施します。



■ 農薬使用に関する注意事項

- 農薬は、農薬取締法に定められた事項が表示されたもの、または特定農薬に該当するものを選び、有効期限内に使い切れる量を購入する。
- 農薬のラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を読んで、十分理解し、表示された濃度や使用量等を守り、必要量以上に農薬を調製しない。
- 散布作業前日は、飲酒を控え、十分な睡眠をとる。体調の優れない、または著しく疲労しているときは、散布作業に従事しない。
- 農薬の使用前には、防除器具等を点検し、十分に洗浄がなされているか確認すること。また、農薬の使用後には、防除器具の薬液タンク、ホース、噴頭、ノズル等農薬残留の可能性がある箇所に注意して、洗浄を十分に行うこと。
- 農薬を散布するときは、必要に応じ、あらかじめ、周辺住民等の関係者に連絡し、立札を立てるなど、関係のない者が作業現場に近づかないよう配慮する。
特に、有人ヘリや無人ヘリで防除する場合は、学校や病院等の公共施設及び近隣の住民等に対し、実施予定日時、区域、薬剤等についての周知に努める。
- 農薬の飛散による危被害を防止するため、近隣の住民、飼育されている家畜及び河川等の周辺環境への影響に注意する。
特に、有人ヘリや無人ヘリで薬剤散布する場合は、有機農産物が生産されているほ場等に農薬が飛散しないよう注意する。
- 農薬の調製及び散布作業中は、マスク、手袋、眼鏡等を着用し、体を防護する。
- 散布作業後は、よくうがいをし、手や顔などの露出部だけでなく入浴し全身を十分洗う。

■ 農薬に関してお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課 (TEL:011-231-4111(内線)27-838)

北海道病虫害防除所 (TEL0123-89-2080)

または最寄りの総合振興局・振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等について、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。

